夕刊
磐城新聞
七月二十八日發行
定價 一ケ月金五拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄 全六拾錢 特別欄 全九拾錢（五號十二字詰一行一回）（場所指定一行一圓増）
編輯印刷兼發行人 柏木 〇 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄電略（イワキ） 平局振替口座第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

或女學校風景

茶目子記

（3）

……ネ茂ちやん敎へてよ今年は何年なのよ、冗談ぢやあないわ笑はれちやうぢあないの

……僕は君の兄貴だぜ『兄さん』つて呼ぶんだよいゝかい自己紹介するぜ、僕は今高校へ通つてるんだよもう一年經つと帝大さ、伊久子はもう女學校四年だらう、何時までも赤坊で困つちまあなあ。何んでも兄さんは敎へてやるよ。學校の話でも、野球の話でも、友達の話でも、シネマの話でも、政治の話でも、カフツエの話でも、哲學でも、それは年號も……おい、よく聞けよ、一九三三年ぢやあないか。いゝかい一九三三年型の女性になるんだぜ、兄貴がいゝ話を聞かせてやらあ、我々の生活はとても素晴らしく彈力ある世界だぜ

……エヘン兄貴だと思つて意張つてやがる、でもやつぱり私のやさしい兄貴かしら……言葉が荒いつて?そんなに怒るなよ。兄貴の感化だぜ、オイ有難迷惑な兄貴だな、でも我慢するよ、高校とは嬉しいわね、私のクラスの素的な美人を兄貴に紹介してリーベにして貰ふかな、いゝでせう?アレッうれしがつてらあ、そんなに嬉しがると紹介してやらないぜ、勘忍してくれつて、ちやあ許して上げるわよ。

最後の通信を伊久子が渡し終つた時、理科室一杯に大きな笑聲が起つた。多分敎師のお茶目だらう。みんなの笑聲をいゝ事にして茂子と伊久子は今まで体中一杯に堪へてゐたお可笑さを全部ぶちまけて仕つた

……ワツハ……

……ワツハ……

彼女達は大きく〳〵体をゆすつて笑つた。

外の生徒がすつかり笑ひやんでからも二人は何時までも何時までも笑ひこけてゐた。

吃驚した樣に振り向く友達、先生のむけた一瞥、二人に集中した視線にぶつつかつて二人ハッと口を結んだ頬に漂つてゐる笑ひを、それ以上掩ひかくす事は出來なかつた

×

晝食後運動場に出た茂子と伊久子には校舍の北を通り抜けて校舍裏の花壇へ出でゐた

た種々樣々な草花が赤、黄白、紫に彩られてゐた彼女等は其處を一巡回して又運動場へ出た。太陽が八〇度の角に今地球に陽をなげかけてゐる。

『あゝ悩ましの夏——君あのもゆる緑を見給へ』

茂子は胸を張つて大きく呼吸して眩し相に室を眺めた、そして運動場の隅々まで眼をやりながら眩いた

『ネ伊久ちやん、こんないゝ日は自分で自分におごる値大ありだわね』

『ゝ御馳走さま、でもホ、、貴女が貴女におごつても私には關係ない——餘り御馳走さまでもない』

彼女は大仰に首をふつて見せた

青空は何處までも續いて宇宙の偉大さを今更の如く思はせる

山寺鈔（二）

台僧 純薫

○かへるでの葉末に露は光りをり朝しづけきわが庵かも

○自らを描かしし繪葉書ぞ呉れたまへり心に泌みて忝なけれ

○都べゆこの寂び寺にとどまりて高文受驗の若人はをり

　未だ見えぬ市原里川氏に

○わが寺の三昧會に君來るとたよりうれしみひた待てるなり

○歌の上に知りて久しき君來るは心待たるる昨日もけふも

たみや（遺稿）

海達 公子

おみやのもりから
たん〳〵たん
おみやのたつおと
たん〳〵たん。

夕日

もうすこうしで
ちつこうの
さきにはひろお日さん
がたにひかつて
まぼゆい
まばゆい。

吉田口から

セウスケ、イトウ

平發午前零時五十四分にて車上、日暮里驛より山の手線にて大月驛迄、一行頗る頑氣目的地に近づくにつれ次第に同好の士が加はつて行く

途中八王子驛にて横濱市立賓科高等女學校ゝ徒約六十名乗込み一行彌が上にも賑かになりぬ

午前八時三十五分大月驛乘換、電車にて富士吉田驛着、驟雨頻りに降りて不安彌々つのる、驛前の富士屋へ足をそゝぎて休憩する事午後零時半迄。一切の準備を整えてハイヤーを購ひ馬返しへ向ふ

天運我に與みしてか、次第に晴れて眼前に雄大なる富士の英峰を觀、元氣百倍せり。

平の首本君の快豪さ、士尾君の快活振りに反して久保木君の沈勇さ、中村君のユーモア振りは何れも旅情を慰むるに充分なりき

彌々馬返しより豫定の八合目指して登り一夜の夢をむさぼり明早朝頂上を究めて歸省し様と只天候のみ氣づかはれてゐるのであつた

（二十六日午後零時富士吉田驛富士屋にて）

〇社會の今日

7月29日

△平重盛薨ず（治承三）△長沙の土匪日本領事館を燒く（昭和五）△揚子江八百哩の大洪水を報せらる（同六）△滿鐵職員千七百名整理（同六）

〇

土用灸いたはり合ふて老夫婦　星濤

寄り添つてたまづて歩く公園に、雲を破つて月が出て來た　上田隆一

講談 劍火無情

（78）津屋義人作 菅野蒟作畫

黨中黨を樹つ（二）

水戸城下は平靜に復した他の地方に一時戰禍を避けてゐた老幼も皆我家へ戻つて來た

上市の鶴屋も平常通り營業を續けてゐた。彼の不思議な婦人は相變らず奥の室に、中庭を眺めて酒を飲んでゐた

『一家は敬意を拂つてゐる

日暮時に番頭半助は例の平蜘蛛のやうにしきゐの外に平伏して

『奥樣々々、お願ひがございまして一寸お邪魔に出ましてございます』

女は噴出して

『厭ですねえ番頭さん、到頭私を奥樣にして了つてさ初めて來た時は御新造樣だの、お嬢樣だのと言つてゐながら……マア何方でも可いけど、お願ひだなんて一体何事なの』

『へイ、いつも〳〵失禮許り申上げて居りますが實は其今晩お客樣が立て込みまして、二階も一杯になります。下座敷は帳場へまでお詰めを願ひまして困つて居ります。何分鹿島香取の兩社詣りの道者でございまして、一組の講中が二十五人といふ大連で、大抵ならお斷り申すのでございますが毎年の事で斷り切れませんのでお願ひに參りましたへイ』

『アヽ判りましたよ、此室へも合宿をさせて呉れといふのでせう』

『イヽエ何う仕りまして左樣な失禮な事は願ひません お次の室へたゞ一人だけ御迷惑でございませうが……イエ決して無作法な道者衆ではございません。立派な若いお武家樣で別にお氣つかひの人ではございません』

『アヽさうですか、可うございますとも一人でも二人でも私の方ぢや構ひませんよ』

『へエ、有難う存じまするお庇樣で助かります』

番頭はお辭儀の百遍もして出て行つたかと思ふと間もなく女中が案内したらしい

ふすま一重隔てゝ若い武士が合宿をするとあつては普通の女なら恐ろしからうが、例の男婦は平氣で酒を飲んでゐた。

其武士も女中對手に夕飯の膳に酒を始めたらしい

七日以上も逗留してゐる馴染の女客はもう女中の名を其聲で知つてゐた

『お竹どん、序に私の方へもお銚子を賴みますよ』

『ハイ、もう持つて參つて居ります。左樣なら御免遊ばせ』

女中は忙しさうに間のふすまを少し開けて銚子を出さうとした時、彼の武士と女とはピッタリ視線が合つた

『お隣りのお客樣、失禮致しました』

女から先づ聲を懸けた。

武士は世馴れた浪人風

『イヤ手前こそ、隣室に參つて御挨拶も致さず失禮致した』

『甚だ御無禮ではございますが、斯うしてふすま一重に泊り合はすといふも何かの御縁如何でございます。ふすまを開けて涼しくして御一緒に召上りましては』

『之は有難いお言葉である實は先刻から淋しく思ひ居る所、御同樣旅鬱を散ずるは酒より外にござらぬ、左樣なら手前から其方へ參らうかな』

『さあ〳〵來て下さいませ中庭から好い風が參りますお武家樣端近ですが、此方樣まで……お竹どんお膳を代へてお呉れ。さうして何がアッサリした物をね』

女中は今宵の忙しい中で此室だけに手を取られるに困つてゐたが、客同士が一室に二人一緒になつて呉れるといふので大助り

『マア〳〵こん麼開けたお客樣はございませんよ。私が第一助かります、お肴は唯今直ぐに持つて參ります』

双方へ酌をして置いて女中は引さがる

『失禮な事を伺ひますが、お武家樣は何れから、何れへのお旅でございますね』

『身共は江戸より筑波の邊りへ歸る者でござるが、何分筑波山には合戰激しと聞き、明日山の模樣を問合せたる上道を定めて戻らうと存ずる』

『マア左樣でございますかでは此邊の御藩ではないので……』

『手前は肥前佐賀の藩中、昨今は故あつて浪人。秋岡丹三郎と申す者でござる』

磐中野球部寄附芳名

平町四丁目（略尊稱）

（金壹圓宛）—猪狩庄平、佐藤武之、百澤易興、マルトモ食堂

（金五十錢宛）—齊藤英三郎、志賀盛榮、松崎信正、關内榮助、篠崎平八郎、鈴木與一、松本良治、小野常次、山田信次、江尻淺之助、小島一郎、片寄敬太郎、阿部唯次郎、會田右京、草野喜一

合計—拾一圓五十錢也

夏の畫展

第一で計劃中

平第一校では夏休中全校兒童に對し各種圖書の宿題を課し九月七、八の兩日夏の圖書展覽會を催すが優秀品には普通賞學校賞に分け授與すると

。。。。敎員代表詮衡。　郡敎員會では來る十一月東京に開かれる全國聯合小學校敎員會第十回總會へ代議員五名を出席せしむべく目下詮衡中である

。。。。早田利用指導。　農事試驗場石城分場小島助手は二十七日富岡町農會出張同方部落約三十町歩の植付け不能水田に對する應急策として各種蔬菜を栽培せしむべく指導したが郡下各方部にも漸時同樣な栽培が行はれるであらうと

。。。。入山劍道講習。　入山炭鑛の夏期劍道講習會は來三日迄の豫定で目下自治會館で根本四段が毎日指導しつつあるが參加三十名盛況であると

味覺の會

平第三小學校職員一行は明二十九日午後一時から農試分場で味覺の會を開き同場栽培に依る新鮮な果實を味ふと

。。。。玉葱品評會。　農試分場主催で來月上旬開催すべく準備を進めてゐる

第三小學校月次圖書展

平第三小學校月次圖書展覽會は二十五、六、七の三日間開催されたが想畫、模樣畫等に中心を置いた結果成績比較的良好で左記優秀作品に對する賞狀授與式は本二十八日擧行されたが

△學校賞—（一年）大塚二郎（四年）影山さと子（五年）松崎惣平　△學年賞—（一年）津野文雄 他六名（二年）丹野皓司他五名（三年）木村康他五名（四年）佐藤喜代治三名（五年）志賀啓佑他三名（六年）諸橋富彌他三名

。。。。湯本朝顏品評會。　來月一日から十日迄同町公會堂に於て開催する

。。。。鹽生部長赴任。　巡査部長に昇級四倉警察署より植田警察署に榮轉の鹽生幸次郎氏は明廿九日出發の筈

。。。。錦産組總會。　二十八日午後二時から小學校で開く

平町慶弔錄

△婚姻　西白河郡川崎村太田川二ツ堂二邊見庄一（三〇）白銀町五戸田初音（二七）

△死亡　一丁目二九仙台市北三番町八六安田齡（六三）

舊六月十二日 土曜 丁酉 先勝 八滿 房宿
新七月二十九日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

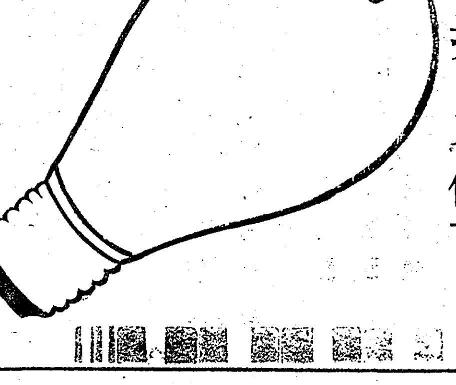
▲一白の人　何等の障がいなくして大發展を遂ぐる大吉日▲二黒の人　身心動搖して物事埒明かざる不安日諸事凶▲三碧の人　手紙書付等人の手にのこるものには注意の日▲四緑の人　一家は至極平穩なり徐に進めば案自ら成る▲五黄の人　思慮分別さへ確かなれば過ちを招く事なし▲六白の人　勇氣を奮ふて後日に備へ妄動せざれば安全▲七赤の人　九分九厘迄成就してものこりの一厘にて敗あり▲八白の人　力を量らず無理に進めば損失破財を生ぜん▲九紫の人　心和かに物事に焦らざれば追々と望を達す

海へ!!
そしたら!
初音に
毎年の通り四倉海水浴の初音は、ほがらか=設備完全=で皆樣を御待ちして居ります。
四倉海水浴
脫衣賣店 初音

外科 全般 内科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
（入院應需）
渡部外科

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は 好間…合戸…澤渡方面行

小兒科・内科
特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
平町。ねずみ坂
滯留隨意
渡邊醫院
電話一六一番


ガス入電球ノ値下ゲニ
次グ又値下ゲ
十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院
眼鏡科
電話十九番

コロンビアレコード
傑作流行歌!!!
讀賣新聞社…懸賞當選歌
東京祭　葭町二三吉
及ど
波路を越えて　松平晃
ガ發賣ニナリマシタ。
御試聽ハ是非當店デ。
會田時計店
平 四 電話三六三

ミシン
シンガー
常磐線平町驛前大通り
磐城販賣所
新品ニ格安品
現金及ビ月賦販賣
針、油、糸付屬品
修繕及ビ中古品
ミシン裁縫教授
生徒募集
ミシン金融ニ買入
責任保証ミシン賃貸

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）（八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
營業種目
石油揮發油輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト
石炭、コークス、ストーブ……
〔型錄進呈〕
◇安全、便利、經濟のスタデリナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンショーストーブ

後嗣の弔ひ合戰として 赤坂翁終に出馬を決意
交渉委員の熱誠に動かさる

同志の縣會議員赤坂毅一氏を喪つた石城政友部會では之れが補闕選擧に就き當今の非常時に鑑みて此際徒らに黨派的偏見を固持し香ばしからぬ政爭に沒頭すべきで無く、自黨縣議の死亡に因る補闕選擧なる見地から敢て老体を煩はし無競爭裡に赤坂亀次郎翁を擁立し度き希望から曩に民政黨側に懇談する處あつたに對し終に同意を得るに至らず不幸逐鹿場裡に相見えねばならぬ事となつた爲去る二十五日の幹部會に於て同翁に對し正式に出馬を懇請する事に決定、安島元代議士、鈴木代議士、井上部會幹事長が二十六日上京青山穏田の居に翁と會見懇談した結果健康及諸種の事情から之を固持して受けず、その決意牢平動かざるものあつたが結局親戚及在京の一二特殊關係者と熟議する迄回答を留保し昨二十七日午後終に立候補承諾の回答に接したが右は一個の縣議に眷戀たる筈無き翁年來の政治的立場から觀て全く交渉委員の熱誠によつて動かされ老齡と進退の不自由を顧みず枉げて之の悲壯な決意に出でたものとして今から各方面に多大の同情を捲き起しつつある

疲勞癒す間も惜く 磐中 平商 選手の猛練習
晴の大會へ出場準備

縣下を制覇して晴の東北各縣大會出場權を獲得した磐中野球部は愈々來月一日から開かれる甲子園野球東北豫選大會場盛岡へ、群山の超最高峰として萬丈の氣を吐く平商庭球部は來月廿四日の全東北中等學校庭球大會場仙臺へ、何れも輝く榮冠を前に試合直後の疲勞も癒さず猛練習を開始したが積年の敗衂を物の見事に濡算した兩軍丈けに意氣眞に物凄い物がある

晴やかな 磐中選手連
明後卅日鹿島立ち

決勝戰で福中に惜敗したとは云へその守備に於て福の失策十に對し僅か二その打數に於て三十五に對し四十一、磐中が攻守共に絶對的の强味ある事勿論で外野の守備堅牢打擊に主力を集注して目下日大安部投手コーチの下に猛練習を續け晴の鹿島立ちは愈々明後卅日午前五時四十分、負傷の杉浦捕手も快癒して一同の前途は晴れやかだ

体驗を語る 平商庭球監督
今後の試合に備ふ

連戰連勝、さながら無人の境を行くが如き戰績で斷然凱歌を擧げた平商庭球軍一週間の休養を待たずしてはや練習に入つた安島賢治、木田英夫、塚本茂、本田茂一の四君である、監督室原敎諭は此間の戰も意氣で勝つたんだ、戰は元氣が最も肝腎だよ、今度の戰で見た欠點はサーヴの虚弱な事來る大會には一段と強く入れさせやう。云々と語つて居る

排球で磐女勝つ
縣下大會初日の成績

第三回縣下女子中等學校体育大會籠排球戰は昨廿七日午前八時から福島高女グラウンドに開催したが磐女軍の戰績左の如く籠球に於ては一勝二敗の不成績だが排球に於ては强豪福女を破り意氣軒昂であると

籠球
磐女 11―6 會津高
同 15―22 福女
同 6―35 女師

排球
磐女 2―1 福女

磐女軍優勢
二日目の籠排球

女子中等學校籠、排球試合第二日に磐女校籠球部は須賀川、喜多方に優勝順位は福師、福女が首位で相女、磐女校は第三位、排球は安女に敗れたのみで順位は相安が首位磐女が第二位、選手一行は今夕六時二十分で歸校する

屈よ伸せよ吾等が腕
健康歌を配つて ラヂオ体操勸誘

來月一日から廿日間行はれるラヂオ体操の打合せは昨廿七日午前九時から第一校に開き會長青沼銘太郎、副會長曾我直治、津田達造、赤津千里、柴田德二の諸氏を選任したが指導員は各々宿直員一名の外第一瓜田蒔訓導で尚左記の歌を各方面に配布、多數參加を歡迎すると

1 躍る旭日に光を浴びて、屈よ伸せよ吾等が腕、ラヂオは號ぶ一、二、三
2 香る黑土玉露踏んで、跳る躍れよ吾等が跳、ラヂオは號ぶ一、二、三
3 清い朝露凉風うけて、吸へよ出せよ吾等が大氣、ラヂオは號ぶ一、二、三
4 吾等手足の打舞ふところ強く明るく天地も躍る、ラヂオは號ぶ一、二、三

投稿
投書歡迎

磐新と投稿者各位へ。。。。

◇「遲言二つ」を讀んで今更の如く驚いた。俎上にのせられた小佛某も浦島某も地方文壇の雄?として我々未知の者から敬慕されてゐる磐城文壇[■]於けるオルグであるはずだ。オダテ、言へば指導的立場にある彼等だ、それになんぞや指導的立場にある彼等がいたずらに反對のコキオロシをやらかしてお山の大將吾一人とはいやはや實になさけない

◇拜聞するに　俳句に於ては先日前田先生をして各々の作品を批評せしめ以てその優劣を見たとか、それにまねるわけぢやないが次の様にしたらどうかと思ふ

◇即ち磐新が　主催になつて適當な場所に之等文豪歌聖（正直に言へばドングリのせいくらべ）を集めその各自の有する高尚な?御意見、御感想を戰せて見たらどうだ。「高木君……グウの音も云々」なんて、たかゞ新聞紙上でタンカを切つた所で拍手喝采をする者がはたして幾人かあるだ。要するに右の言論戰に於て勝つた者がたゞ山の大將になればいゝそしたら勝つた組は、たしかにオモクロイはずだ（冷眼居士）

虚弱兒身體檢査
健康增進を期する 赤沼の臨海施設

平三小學校では夏休中虚弱兒童の体育增進を圖るべく來月一日から一週間の豫定で赤沼海岸に於て臨海施設を試みるので平第一校では今廿八日全校の虚弱見込兒童の身体檢査を行つた

第二臨海校
來四五兩日豊間へ

平第二校では來月四、五の兩日豊間村大字薄磯海岸に於て海岸遊歩、日光浴、海水浴、磯遊び、燈台見學、陸上競技、水浴講習等々の臨海學校を開くと

果物は豊かに實る
農試分場の近況

農事試驗場石城分場では目下果實優良系統及品種比較肥料試驗等に重きを置き專ら梨、桃、葡萄、梅等に亘つて品種の改良につとめてゐるが本年は大暑以降氣溫も比較的高く水分もいゝ上に發育概して良好だつたので豊收を當てこみ縣命な試作を續けてゐるが同試驗場調査に依る各果實の現況は

△梨―收量多きは早生赤、長十郎、廿世紀の順で値段は早生二十錢、長十郎十八錢、廿世記三十錢
△桃―傳十郎、田中早生、離核水蜜の順で貫當り早牛四十錢、中生二十錢、晩牛種二十五錢
△葡萄―重に市場にあるキャンベルスアーリー、ニー四十錢、シャスラローズ三十錢、ナイヤガラ三十五錢
△梅―白加賀、養老、林洲

地方夏秋蠶
平支所調査の豫想

平支所の調査に係る郡下の夏秋蠶掃立豫想は

（單位グラム）

夏蠶	一四、三五三
普通	七九、〇六九
晩秋	一二八、六〇四

夏蠶は山間部で目下三齡三日發育良好、普通八月一日晩秋九月二日前後の掃立、桑は旱天の爲め遅れる

七十七銀行の躍進
今期百萬圓を增加して 現在預金七千五百萬圓

小原支店長、高橋副支配人以下の熱心奮闘により石城地方に於ても支店銀行として目覺ましき活躍を見せつつある七十七銀行では引續き堅實なる地歩を築き上げ預金の如きも前期より百萬圓を激增し實に七千五百萬圓の巨額を算するをはじめ今期中有價證券の値上り利益五十萬圓を資算に計上せず只管內容充實に資する等逐日行運の隆盛を示し此程配當金十一萬百五十九圓（年五分）を行つた上約六萬五千圓を後期に繰越すの好成績を收めた、尙ほ同行では現取締役で資産三百萬圓と稱せらるる角田町の素封家氏家淸吉氏が副頭取として就任し更に五十五歳停年法を設け新進の行員を以て積極的營業方針により進むべく新陣容を整え今後の伸展を期待されてゐる

果實栽培指導
齊藤分場長平窪へ

平窪村果實組合の果實園は現在三十五町歩を算し梨、桃等栽培管理の成績頗る優良なものあるが更に一段の改良を期し今廿八日午前十時から齊藤農試分場長により果實栽培の講演を行ひ終つて實地の指導をなした

贋免狀で運公就職
公文書變造行使發覺

江名町江名貨物自動車部佐藤文治郎氏方運轉手大谷淸(三七)は丁型フォード乙種免狀でシボレー使用の佐藤氏方には住み込めぬ爲め四月中之を變造就職し何喰はぬ顏で澄し込んで居たのを昨二十七日平署員に探知され同署の取調を受けて居る

一少年赤十字團長に謝狀
前平第二少年

赤十字團長佐藤一（前校長）副團長谷川政（同首席）の兩氏は此程何れも日本赤十字社福島支部より感謝狀を贈られた、尙後任として團長に津田達造、副團長に金澤邦男の兩氏が正式任命された

トラ鉢合せ
車体大破乘員無事

小名濱町佐物自動車營業金成利惣太方運轉手堀部金吉(三)は二十六日午前十一時半頃石川町からの歸途トラックを運轉し東白川郡宮本村地內縣道急カーブに差しかゝつた際小名濱町松原嘉內方運轉手小山茂(三五)が鮮魚を積んだトラックを運轉して來たのに正面衝突し双方共車体は大破したが幸ひに死傷者はなかつた

悲戀の日光心中 女の死体發見
昨夜遺骨村へ歸る

華嚴心中―飯野村北白土堀の內一四農佐吉長女鹽ツルヨ(二四)さんの死体は父佐吉氏近親盟義助、鈴木文代の兩氏が廿六日錨に衣類の一片が上つたのに力を得更に捜索を續けた結果腐爛しかゝつた死体を發見廿六日直に茶毘に附して昨夜九時三十一分着で歸村した

遺骨の祝言
淚の式を擧げて 合葬するか?

心中相手平郵便局保險集金員菅野幸三君(二三)の遺骨は一昨廿六日實父久助氏の手により實家に送られたが女方では男の遺骨を婿として迎へ合葬すべく同村高杉淸一、藤井某の兩氏は今廿八日內郷村御厩の菅野家に交渉に行つたが亡き兩人の心情を酌みとり菅野家でも快く同意するであらうと

ヒレ實は犬の肉
廿餘頭を殺した贋牛肉商 昨日其筋に擧げらる

好間村では最近頻々として畜犬が行方不明となり飼養者間に大恐慌を來して居たが昨二十七日同村北好間地內で犬に菓子を與へて居る擧動不審な男を巡邏中の警官が連行取調の結果右は同村中好間馬場前二六鈴木淸(三五)で數ヶ月前失職して生活に窮した上旬同村町田加藤淸七、北好間佐藤寅藏其他の飼犬二十一頭を撲殺し牛肉と稱して各方面に販賣して居た事を自白した目下引續き取調中

橋梁架換入札
好間

村町田橋草野村柳牛橋は腐朽したので工費二千圓で何れも架換へる事に決し今二十八日午後一時から平土木監督所で入札を行つた

鑛泉塲荒し
六犯男捕はる

當時住所不定無職石川郡須釜村生れ前科六犯關根美佐雄(三八)は二十五日大野村玉山鑛泉石屋事草野又藏方に投宿し二十七日午前二時同所藤屋事高木勝太郎方平町草野七五三之助氏家族の客室に忍び入り物色中騷がれて果さず逃走したのを駐在平塚巡査が追跡同町午前四時四倉町で取り押へ取り調べの結果前記藤屋から現金五十圓金銀側時計三個を盜んだ事を自白した、東北、北海道、京濱方面にも犯行あるらしく引續き取調べ中

繼母を毆る
親不孝の亂暴者 平署へ檢擧さる

平町大工町一六眞藏二男高比良勝彌(二五)は町內評判の親不孝者で昨二十七日午前七時頃洗面器に水を扱んで置かぬのが悪いと繼母イト(四〇)に食つて掛り有り合はせた棒片で顏面其他を毆打し全治二週間の傷を負はせた廉で平署で取調の結果先頃も祖父武右エ門(八〇)を些細な事で散々毆打し昨年の簡閲點呼には途中から失踪し當局を手古摺らせた事あり生活豊かならぬ家を外に遊び廻つて居る暴れものと判明引續き取調中

平署十用稽古

平署柔劍道部では横山署長を始め連日炎熱に抗して猛練習中であるが來月中旬平、福島、郡山、若松四署對抗のリーグ戰が計劃されて居るので必勝を期し更に一段の猛練習を續ける事となつた

朝鮮から

暑中御伺申上げ候。日頃御無沙汰申候小生四月渡滿大連上陸以來死房店を振り出しに大石橋營口を經て遼河を渡り田庄臺より溝帮子と錦洲に向ひ奉天撫順本溪湖安東を巡しK氏の厚意を以て魔窟を探り馬賊を聞き朝鮮に入つて新義州より平壤仁川京城を經て北韓に入り目下露領に近き雄基に消夏能在り候、一兩日中に北日本と滿州とを連絡すべき將來の大港羅津を見て會寧に行き月末元山を經て京城より釜山方面に出て九ヶ頃內地へ引上げ九州關西を廻り歸國仕る豫定に候（後略）（七月中旬、朝鮮北韓雄基にて、伊藤一）

◦第二校成績展。今廿八日午前九時から圖書、書方、手工の展覽會

◦横領。神谷村字岸日雇業松崎信淸(二八)は同村渡邊次郎方に雇はれ中二十三日大浦村鈴木己之吉方へ届くべき現金五十圓を横領四倉海岸及鎌田遊廓で費消し其筋に檢擧さる

◦泥醉。平町柳町二六日雇吉田浪吉(五二)は昨二十七日泥醉し仲間町地內で通行人に恭付き平署員に說諭された

◦鼠賊。小名濱町中坪五九漁夫平光(三二)は廿二日から二回に亘り泉村劍ヶ濱海岸から劍濱漁業組合專用保護の※殖ワカメ二十餘貫價格五圓を無斷採取して漁業組合長瀧內與小氏から平署に告訴され目下取調を受けて居る

埃の街

今廿八日午後一時頃平驛長室へ兩手の指がない書道家熊本縣出身の元臺灣總督府警部で前後三回の討蕃に參加し大正七年五月普通銃創のため一指殘しただけの負傷をした北林重成號華山と云ふ書道家が訪づれ僅に殘つた左の指の股に筆を挾め驛員の前で不思議な手つぎで盛に健筆を揮つてゐた二三日平に滯在すると

株式會社 七十七銀行
第三期末（昭和八年六月卅日現在）貸借對照表

資產ノ部（借方）

現金預ケ金勘定	八、〇八一、四四七・〇八九
現金	六、九七八、〇七九・六八九
預ケ金	一、一〇三、三六七・四〇〇
（內日本銀行ヘノ預ケ金）	（二七五、四六三・四九〇）
コールローン	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
有價證券勘定	九、四八七、九六〇・七四〇
國債	五、七五八、八一六・二三〇
地方債	三一〇、八八〇・〇〇〇
社債	八六四、五六五・四九〇
株式	二、五五三、六九九・〇二〇
割引手形勘定	一、九八三、〇〇六・二一〇
商業手形	二八九、〇三三・四〇〇
荷付爲替手形	四三六、四三一・九三〇
受取手形	一、二五七、五四〇・八八〇
貸付金勘定	五三、五九九、八三八・八一〇
手形貸付	二七、八七三、三三四・七〇〇
證書貸付	一五、六六八、三二一・九〇〇
當座貸越	一〇、〇五八、一八二・二一〇
他店貸	四六四、九六九・六六〇
支拂承諾見返	一五六、五三七・四四〇
雜勘定	二六〇、三八六・七五〇
假拂金	二六〇、三八六・七五〇
動產不動產勘定	二、六八七、五二五・一八〇
營業用土地	二、三八三、四二六・四八〇
建物什器	
所有動產	九、三〇四、〇九八・七〇〇
不動產	
株主勘定	四、九九三、六二五・〇〇〇
拂込未濟資本金	四、九九三、六二五・〇〇〇
合計	九一、八一五、三二六・八七九

負債ノ部（貸方）

預金勘定	七四、八九九、六四六・八六四
當座預金	一七、八一九、七五八・八三八
特別當座預金	一五、六八九、〇五一・三六九
通知預金	九五七、一八一・六〇〇
定期預金	三五、七一四、二二〇・七二五
別段預金	四、七一九、四四四・三三三
借用金勘定	六四〇、〇〇〇・〇〇〇
借入金	六四〇、〇〇〇・〇〇〇
コールマネー	五、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇
他店借	五五三、五〇五・三七〇
支拂承諾	一五六、五三七・四四〇
雜勘定	八〇一、〇五八・六二〇
未拂配當金	一三、五〇六・九六〇
未拂利息其ノ他	三三五、三九一・六〇〇
未經過割引料其ノ他	一二四、四三四・九七〇
預金利子諸税	三三、四八三・〇〇〇
假受金	三、九四一・五〇〇
未拂送金爲替	一八三、七三〇・七〇〇
行員身元保證金	一五一、四二四・三五〇
行員恩給金	六、一四五・四一〇
株主勘定	九、四八四、五六八・五九五
資本金	九、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定準備金	六〇、〇〇〇・〇〇〇
任意準備金	九〇、〇〇〇・〇〇〇
行員退職給與資金	三〇、〇〇〇・〇〇〇
當期利益金	三〇四、五六八・五九五
（內前期繰越金）	（六八、八六〇・一六〇）
合計	九一、八一五、三二六・八七九

利益金處分

當期利益金	金參拾萬四千五百六拾八圓五拾九錢五厘
法定準備金	金四萬圓
任意準備金	金六萬圓
行員退職給與資金	金三萬圓
配當金（年五分ノ割）	金拾壹萬百五拾九圓參拾七錢五厘
後期繰越金	金六萬四千百九圓貳拾貳錢

右之通ニ候也
昭和八年七月二十六日
株式會社 七十七銀行

取締役頭取	伊澤平左衛門
專務取締役	中村梅三
取締役	佐久間俊一
取締役	氏家淸吉
同	谷井文藏
同	木村淸五郎
同	小野惣助
同	山田万七
支配人兼取締役	佐藤鐵郎
同	橫山勤助
常任監查役	中山壯輔
監查役	八木久兵衛
同	福島禎藏
同	大庭彥六郎
同	工藤延治郎
顧問	齋藤善右エ門
同	佐藤龜八郎

石炭 コークス 玉炭
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番